TOP SAFETY REPORT

経腸栄養チューブ
（胃瘻用 バンパータイプ）

1 正しく設置されているか確かめましょう

栄養剤を投与する前には、必ずバンパー及びチューブの位置に誤りがないか良く観察をしてください。

Check 1 栄養剤を投与する前に、必ずバンパーの位置確認をしてください

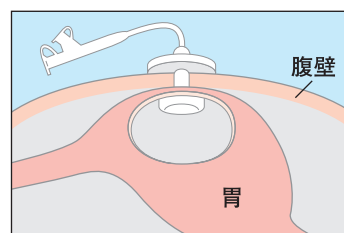
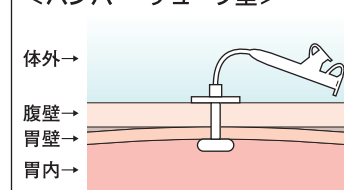
栄養剤投与の開始前には、バンパーが胃内に適切に設置されていることを必ず確認してください。バンパーの位置が腹腔内にある状態で栄養剤を投与すると、腹膜炎、敗血症などの重篤な合併症を引き起こすおそれがあります。

Check 2 チューブ位置の確認をしてください

（バンパー･チューブ型の場合）定期的に患者さんの体外に出ているチューブが通常よりも短くなっていないことを確認してください。チューブが腸内に引き込まれることにより、イレウスを引き起こすおそれがあります。

<バンパー・チューブ型>

Check 3 チューブは引っ張り過ぎないようにしてください

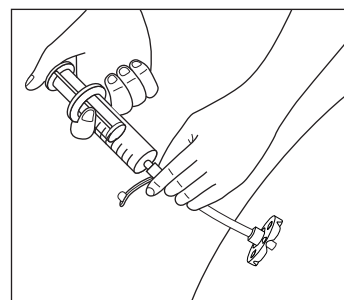
引っ張り過ぎによる胃粘膜や皮膚への圧迫がないことを確認してください。引っ張り過ぎは、バンパー埋没症候群のおそれがあります。

2 チューブをきれいに保ちましょう

栄養剤等の投与前後には、フラッシュ操作を必ず行ってください。

Check 1 栄養剤等の投与の前後には、必ず微温湯にてフラッシュしてください

チューブの詰まりの原因で最も多いのは、栄養剤が溜まることによる閉塞で、体液や薬品が原因となることもあります。栄養剤等の投与の前後には、適量の微温湯でチューブ内をすすいでください。

Check 2 フラッシュ操作の際、抵抗が感じられる場合には、操作を中止してください

栄養剤等の投与や微温湯などによるフラッシュ操作の際、操作中に抵抗が感じられる場合は、操作を中止してください。チューブ内腔が閉塞している可能性があり、チューブ内腔の閉塞を解消せずに操作を継続した場合、チューブ内圧が過剰に上昇し、チューブが破損又は破断するおそれがあります。

3 チューブの抜去は、内視鏡的に行うことを推奨します

一定期間留置しますと汚れや詰まりなどにより、新しいチューブに交換する必要がありますが、その際には内視鏡的抜去法を推奨します。

株式会社トップ 安全管理部
〒120-0035 東京都足立区千住中居町19番10号

使用の際には、必ず詳細を添付文書及び取扱説明書にて確認してください。

P010803-025